

最後のフィッシングパラダイス

北大東島

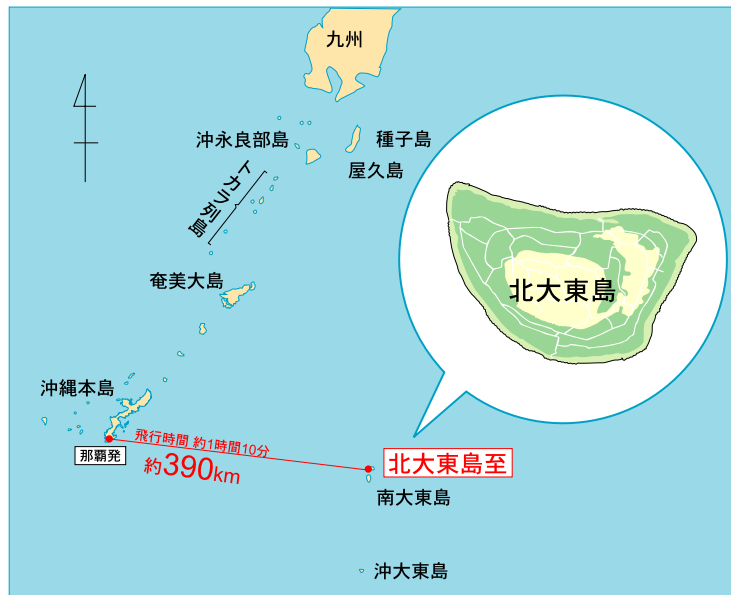
ここは **おもしろ** 自然アイランド。



1泊2日の旅からでも楽しめます。



北大東村



39席のゆったりとした静かな機内で
快適な空の旅をどうぞ。

琉球エアー

空からのアクセス

毎日1便往復
(所要時間1時間10分)
主発時刻/
那覇発2:30→北大東着3:40
北大東発4:35→那覇着5:50
※曜日によって出発、到着時間が異なります。

ご予約・お問い合わせ
便利なフリーダイヤル
0120-1003-59
日本トランスオーシャン航空株那覇支店
本土ではフリーダイヤル
0120-25-5971
日本航空株国内予約



見渡すかぎりの水平線に星空を眺めながら
ロマンチックな船旅をどうぞ。

大東海運株式会社

海からのアクセス

船名「だいとう」
那覇泊港(とまりん)17:00発→
(北大東島経由)
→北大東島着(翌日) 07:00
→南大東島着 09:30
(南大東島経由)
→南大東島着(翌日) 07:00
→北大東島着 09:30

ご予約・お問い合わせ
TEL 098-861-0515
TEL 098-861-0516

● 宿泊施設 ●

- ハマユウ荘うふあがり島 〒901-3902 沖縄県島尻郡北大東村字中野152-9
TEL.09802(3)4880
- 民 宿 二六荘 〒901-3903 沖縄県島尻郡北大東村字港37番地
TEL.09802(3)4046

お問い合わせ

北大東村役場 〒901-3992 沖縄県島尻郡北大東村字中野 218番地
TEL/09802-3-4001 FAX/09802-3-4406
<http://vill.kitadaito.okinawa.jp>

島は 食の楽園。



■大東寿司

土産品

北大東島の おみやげ。

北大東の土産品は、いずれも味自慢。獲れたてのマグロを燻製にしたマグロ節をはじめ、サワラの塩漬(冷凍)や大東月桃のムーチャー(抗菌植物)など、手作りの土産品、黒砂糖を使った各種菓子、ザラメ菓子、そして見逃せないのがJA北大東内にあるパン屋さんのじゃがいもパン、是非ご賞味下さい。



マグロ節

獲れたてを燻製にした贅沢な味は、意外にあっさり風味。島の人々は、マグロ節の削られる音で目が覚めるといふ、北大東の特産品です。

サワラの塩漬け、ここにムーチャー



黒糖菓子各種

じゃがいもパン

バターと塩コショウで、じゃがいもの風味を生かします。島の新しいおみやげにどうぞ。



ハマユウ荘 うふあがり島

近年オープンしたばかりで島一番の高台黄金山に建ち、島の内陸部が一望できる絶好のロケーションにあります。



観光から研修、団体旅行まで多彩な用途に対応
レストラン・バーベキュー広場・宴会・会議室や
大浴場などの施設も充実。

※レンタカー・レンタルバイク・レンタルサイクル・レンタル釣具・チャーターポート・島内周遊観光小型バスなどご用意できます。

北大東島ガイドMAP

自然散策ポイント



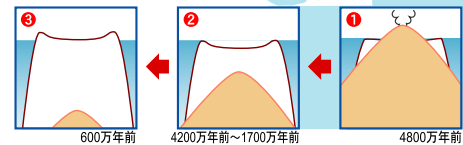
ここはおもしろ自然アイランド。

FISHING

DIVING



ホエルウオッチング
毎年春先の3月～5月頃までサトウヅラがやってくる。時には岸から間近で見ることができ、北大東ホエルウオッチングの特徴です。



- 約4800万年前、火山島として誕生。
- その後火山の活動が止まり同時にサンゴ礁が成長し、海面すれすれに環礁が出来上がった。
- リング状のサンゴ礁が隆起し、リーフとラグーンが陸地となり現在に至った



ポロジノシキソウ アツバクコ ウスジロイソマツ

自然



ダイトウヒラタワガタ (固有亜種)



ダイトウメジロ (固有亜種鳥)

バードウォッチング



アマサギ タゲリ カワセミ



北大東は移動してきた。

大東諸島移動説

北大東島は、今から約4800万年前、現在のニューギニア諸島周辺で火山島として誕生。その後、約4200万年前に沈下し、火山島の頂上にサンゴ礁が堆積しながら、フィリピン海プレートにのり北上を続けた。長い間海に沈んでいたサンゴ礁の島は約600万年前、隆起に転じ、現在の位置まで長い旅を続けてきた。

島の歩み

ウフアガリジマ

大東諸島は今から約180年前ロシアの海軍左官により発見され、艦の名にちなんでポロジノ諸島と名付けられ、その後、外国船がたびたび訪れベリイ提督も那覇に向かう途中に寄ったことが確認されています。

古来より沖繩では「ウフアガリジマ(はるか東にある島)」と呼ばれ、その存在は知られていませんが、島を取り囲む高さ15m前後の険しい崖壁が上陸を拒みつけ、長い間、太平洋に浮かぶ絶海の無人島でした。

開拓の祖、玉置半右衛門

こうした中、開拓に着手したのが、八丈島出身の玉置半右衛門。島島の開拓でアホドリ羽の採集事業を起し巨万の富を築いていましたが、終局を迎えたため、後継事業として着手したのが、大東島の開拓だったのです。八丈島を中心に開拓者を募り、八丈島を出航、島島、宮崎、鹿兒島、那覇港を経由して、一路大東島へ向かいました。しかし、季節風の時に合い、幾度となく沖繩本島へ引き返し、難航に苦しみながらも



玉置半右衛門

北大東島開拓の歴史

玉置半右衛門は、明治36年に山田多恵吉、他、数名を初上陸のため派遣し、現在の役場前を開墾させ、甘蔗八株を植え付けたのが始まりです。

玉置商会は南大東島では甘蔗農業が主であったのに対し、北大東島では燐鉱採掘事業を主に行ない、沖繩本島北部や、伊豆名、宮古、八重山諸島から労働者が渡っています。

明治43年に始めた階段式の露天掘り採掘事業も、途中、技術者不足のため廃止になりました。燐鉱採掘事業の失敗で、甘蔗農業に切り替えていた北大東島でしたが、大正5年、玉置商会から東洋製糖株式に移り、東洋製糖株式は大正8年、第一次世界大戦で燐鉱石の需要の高まりをうけ北大東島の燐鉱採掘事業を再開させました。

北大東島の燐鉱は他では見られない特徴をも



燐鉱採掘

戦後の歴史

終戦の昭和20年、米軍統治下に入り、昭和21年米軍が南・北大東を大日本製糖株から接收。同年6月12日、開拓以来始めて村政が施され行政区画が施工された。燐鉱も終戦後、肥料製造が急務となりましたが、米軍による大型機械採掘では、手掘りと異なり製糖の品質が悪く、しだいに衰え昭和25年に閉山。39年には、13年間続いた大日本製糖株との土地所有権問題も解決し、農民は始めて自分の土地を持てるようになりました。糖業が本格化して行きました。



燐鉱積荷 荷役は請負制で10ばいのはしかりで競争する。



昔の燐鉱場や燐鉱機の方より、二階にレールが通っていてトロッコで運んでいた。



現在の燐鉱石貯蔵庫跡

燐鉱石貯蔵庫跡